

ごあいさつ

大阪大学医学部附属病院
病院長 木村 正

平成 30 年 4 月 1 日に病院長を拝命いたしました産科学婦人科学教室教授の木村 正でございます。令和に入りましても大阪大学医学部附属病院へのご支援、ご指導を何卒よろしくお願いいたします。

本冊子では平成 30 年度の本院の活動をご紹介します。平成 29 年度に指定を受けた「がんゲノム医療中核拠点病院」では、「遺伝子パネル」の先進医療下での実施とその評価が着々と進み、保険収載されたパネル検査の稼働も始まりました。平成 27 年度に日本で最初の「臨床研究中核病院」に認定されがん診療と共に循環器疾患・移植・免疫をはじめとする様々な領域で新しい風を送り込み続けています。臨床研究推進の拠点として未来医療開発部の機能を更に強化し、平成 30 年 4 月より本格的に施行された臨床研究法に対応した臨床研究を強力に推進するための体制整備を行いました。さらに、平成 28 年度より始まった、高質かつハイボリュームな臨床研究を展開するための「大阪臨床研究ネットワーク(OCR-net)」の構築が順調に進み、平成 30 年度末には約 1 万床分の電子カルテがセキュリティーの高いネットワークで結ばれました。平成 30 年より内閣府の AI ホスピタル推進プロジェクトの予算をいただき、AI 医療センターを立ち上げ院内業務への AI 導入を推進しています。

今の日本の医療界において、例え非常に難しいことでも、また新しいことへの挑戦であっても求められるのは十分な医療安全です。特に特定機能病院（大学病院）に対する世間の目は厳しく、本院は歴代病院長の指導の下、執行部の一貫性のある方針により医療安全の強化に努め、医療安全マネジメントや感染制御部の活動は本院内のみにとどまらず地域支援も行い、全国大学病院の模範とされております。

本院は、これら優れた臨床研究支援体制と医療安全マネジメント体制の下で数多くの高度急性期医療を行い、優れた基礎研究の知見を実臨床に供するべく医師主導治験や企業治験を行っております。本冊子をご覧くださいと、すべての分野が非常に前向きに診療・教育・研究に取り組んでいることが見て取れると存じます。吹田移転後四半世紀を超え、令和元年に、再開発に関する概算要求を提出しました。また、病棟再編（グループ化）を行い、よりスムーズな緊急入院が可能な体制をとりました。本冊子をご覧くださいの皆様方におかれましては、私どもの病院にまだ足りないところ、ご利用いただきにくい点などをご指導いただき、私どもの更なる発展にご助言をいただけましたら幸いです。また、地域から初診患者さんなるべく沢山ご紹介いただき、安定したら地域に戻っていただく、という良い循環を作ることにお力添えを賜りますようお願いいたします。

末尾になりましたが膨大な本冊子の編集・作成にあたり、多大な労を尽くしてご担当いただきました各位に深謝申し上げます。